

「提携」一語日本之ニタレバ大々的ニ活動ヲ開始ス
ルコトニナラズ。トテ向上會長の木俣一ヨリ、末信也
氏「貴會ノ幹部ハ和ノ系派分ト批難サレタモ今好ノ
活動ニ於テ見ラレルテアツク、一會ヲ部談シテ
本會ノ解決ニ就クハ各一及当ルルハ忠告アリ
貴會ノ例ニ在リテ期トセヨシ、本日ニ限リ、層外在野
ヲ許サレタモ今好ハ各一ノ各係者ト提携シテ、各以ニ
内集會ヲ常キ活動ヲ開始スル考アリ、タル熱心ニ協力
一及之ヲ諸君ガ後援セヨク、トテ此ノハ今好

諸君ヲ三明シテ解散

官業労働者諸氏に告ぐ

来た、官業労働者の團結すべき時が来た、
東上、米國フシントンに於ける、大東洋會議の議案に依れば、海軍撥
萬の労働者の生活は、根柢から、破壊せられた當局が、將して、吾等の
なぐ程に失業半常を繪文するであらうか。
陸軍五方の従業員的生活は如何であらう、之れ又、無敵の失業者を出す
事は、當局の、言明で、作業の現状で推察が出来、
入帳、富蘭の製鉄所も、一大打撃を蒙り、経営難の事實は明白である、
此の時に際して、吾等二十万の官業労働者は、如何に進むべきか、否、如
何にして生活の保証を得ようか、

然し問題は、例へば資本主義の會議にせよ、平和の理想の本に、保護する
であるから、吾等は考慮すべき點の多々ある事を忘れてならない、けれども
労働者の味方は、労働者以外にない、故に吾等は、此の際、官業労働者の
一大團結を計り、全國官業工場に従業員及家族を連算せる六十餘萬の兄
弟の爲めに、……最善の努力を……最善の結果を納めたい……

呼吸、吾等は、失業の恐ろしきを憂ふる時に、自身が一につかない、
不安を感じた時、泣きた心は更に、……諸君の無きものは、
だ、決して、自分だけ使つてもうななて、……心は出でな、自分も、
人も共に生きよう、人の難儀は自分の難儀と心得、全國二十万の、官業勞
働者が、死ぬなら一所に死のう、頼むなら一所頼まう、それが八萬の失業者
即ち、寒族二十四万の兄弟等を救ふ、一番の近道だ、

起して……義人よ、世の犠牲者よ……それが、人間の崇
高の義務だ……故に天下の官業労働者諸氏に告ぐ

大正十年十二月廿六日 官業労働同盟内

日本労働聯盟

撫養は獲得得て、吳は畏て一組合を組織せよ、大阪も、名古屋も、
八幡も、鶴岡も、佐世保も、健康に、組織的に總起立しようではないか、

編輯發行 芝田 徹 次
印刷所 内閣社王手印刷所
發行所 日本労働聯盟本部
東京市小石川區三丁目